

図1 年次別会員数の推移

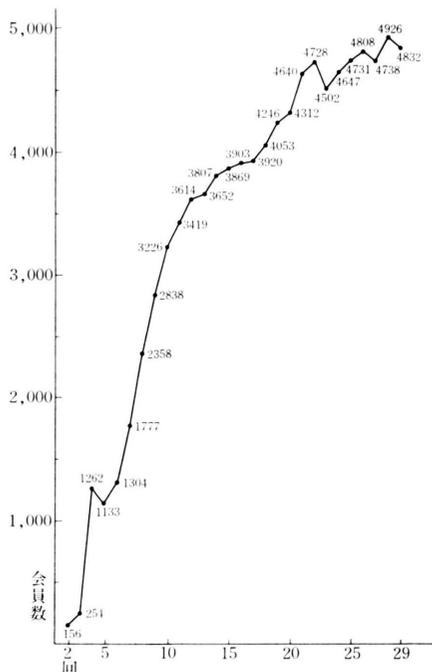
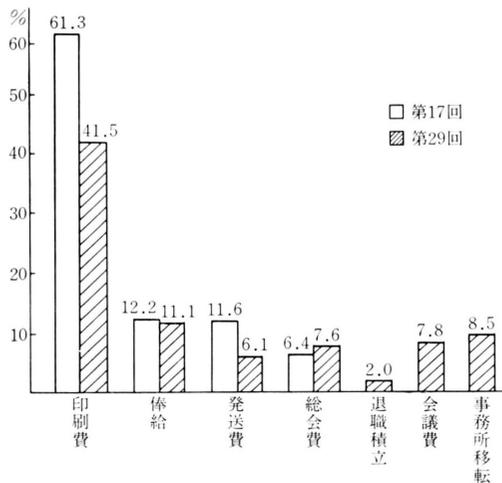


図2 第17回、第29回の支出の主な内訳



が、第29回では 41.5%に減少している。

発送費の占める比率も郵送料が高くなっているにもかかわらず第29回では低率である。

しかし第17回に比して会議費、退職積立金、事務所移転の資金というように胸部外科学会の機構も多様化してきた。

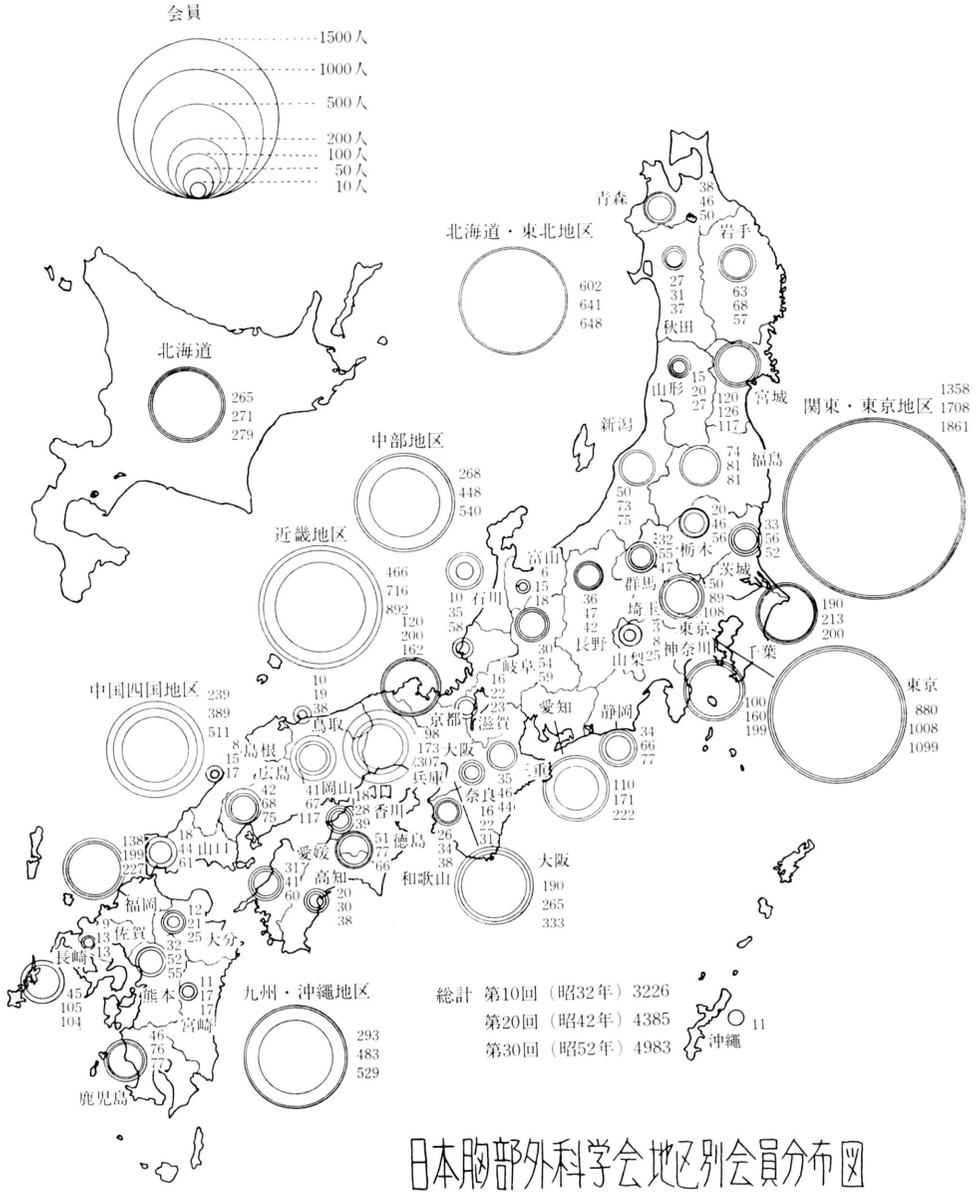
会員の地域別分布

会員の地域別分布を10年毎に分割した(図3)。昭和52年度では関東、東京地区 1,861名、近畿地区 892名、中部地区 540名、九州地区 529名、中国四国地区 511名、東北地区 369名、北海道地区 279名である。都道府県別にみると東京 1,099名、大阪 333名、兵庫 307名、福岡 227名、愛知 222名、京都 162名のように大都市に多いのは当然である。年次別増加率は図3の○の間隔のあるものほど高いことを示している。第17回の17年の歩みの地区別頻度を第30回とそれを比較すると、北海道6.18%→5.6%、東北地区 8.5%→7.4%、関東地区37.2%→37.3%、中部地区10.7%→10.8%、近畿地区17.6%→17.9%、中四国地区 8.9%→10.2%、九州10.9%→10.6%とほぼ同一の頻度を示している。

名誉会員、特別会員および役員

名誉会員の制度は昭和25年(第3回総会)時に設立された。それまでは本会に顧問をおくことができるという項目があった。第3回河合会長は次の諸先生を名誉会員に推薦された(今村荒男、大槻菊男、岡治道、熊谷岱蔵、佐藤清一郎、塩田広重、都築正男、鳥瀉隆三の諸先生)以降今回まで

図3 日本胸部外科学会地区別会員分布図



の名誉会員は表3に示してある。特別会員の制度は昭和49年香月会長の時に新しく制定された。この年より評議員制度も大幅に改定され、それに伴って満60歳以上で通算10年以上評議員であった方がその対象となった。昭和51年までの特別会員の方々を表4に示す。

役員は学会創立時は会長一名、評議員若干名、幹事若干名となっており、実際に誌上に残っているのは第3回の総会である(表5)。

やはり当時は肺結核の外科が全盛時代であったようで結核を専攻する内科医あるいは放射線科、

会田宗太郎，青柳安誠，赤倉一郎，足立忠，天野重安，荒木武雄，粟田口省吾，石川七郎，石川善衛，今永一，岩井孝義，岩崎竜郎，岩鶴竜三，井上雄，石川義信，内山八郎，卜部美代志，海老名敏明，奥田義正，小沢凱夫，岡本隆彦，桂重次，加納保之，河合直次，貝田勝美，北本浩，木本誠二，日下部周利，久留幸男，古賀秀夫，古賀富夫，小清水忠夫，沢田平十郎，沢崎博次，柳原任，笹本浩，篠井金吾，塩沢正俊，穴戸仙太郎，鈴木千賀志，砂原茂一，瀬田孝一，関口一雄，武田義章，高橋喜久夫，田辺孜，辻村秀夫，津田誠次，堂野前維摩郷，戸田博，道躰祐二郎，中谷隼男，長石忠三，中西正雄，中山恒明，萩原義雄，林周一，馬場治賢，畠山辰夫，日笠頼則，藤田真之助，藤田登，藤浪修一，藤森速水，福田保，本多憲児，前田和三郎，前多豊吉，楨哲夫，松島鉄四郎，三上二郎，峰 勝，宮本忍，武藤完雄，安田竜夫，八塚陽一，柳壯一，横田浩吉，吉浦一雄，依田亘正，渡辺英敏，渡辺三郎，綿貫重雄，脇坂順一

(幹事) 19名

青柳安誠，会田宗太郎，○卜部美代志，小沢凱夫，河合直次，桂重次，加納保之，木本誠二，篠井金吾，鈴木千賀志，関口一雄，高橋喜久夫，武田義章，戸田博，中山恒明，長石忠三，三上二郎，○宮本忍，本多憲児 (○印常任理事)

表7 理事制発足以来の役員

	○ 理事 ■ 会長 ◆ 副会長 ● 監事									
	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
西村正也	■	●	●							
砂田輝武	◆	■	○	●	○	○	○			
杉江三郎	○	○	◆	■	○	○	●	●		
赤倉一郎	○	○								
榊原任	○	○	○	○	●	●				
鈴木千賀志	○	○	○	○	●	●				
宮本忍	○	○	○	○						
木本誠二	●									
長石忠三	●	●	○							
石川七郎		◆	■				○			
加納保之			●	●	○	○	●			
本多憲児				◆	■	○	○	●	●	
曲直部寿夫				○	○	◆	■	○	○	
香月秀雄				○	◆	■	○	○	●	
麻田栄一					○	○	◆	■	○	
浅野献一						○	○	○	○	
三枝正裕						○	○	○	○	
脇坂順一						○	○	○	○	
和田寿郎							○	○	○	
早田義博							○	◆	■	
香川輝正							○			
末舛恵一								○	○	
辻泰邦								○	◆	
佐藤博								○	○	
弥政洋太郎								○	○	

病理の先生が学会評議員として活躍されていた。またこれらの方々の中に木本先生、榊原先生のお名前のはっていない。先生方が評議員になられたのはそろそろ我国の心外科の発展の萌しが見え出した頃昭和27年第5回の総会時である(表6)。

しかし当時は会長をやられた河合先生が幹事になったり、幹事であった人が評議員にならなかつたりして整然としていなかったようである。理事会制度がおかれたのは第21回加納会長(昭和43年)である。この時より理事会によって学会が運営されることとなった。この理事制発足以来の理事名を表7に示した。以後副会長、会長の選出は理事の中から選ばれるものが多くなり、理事選挙も重要な項目となってきたようである。会長制度、副会長制度については胸部外科学会の歴史の中でふれることにする。表8に各回別の名誉会員、特別会員、幹事(会長補佐のための教室員)評議員、理事、監事の人員を示してある。

表8 名誉会員、特別会員、評議員、理事、幹事

回	昭和	名誉会員	特別会員	幹事	評議員	理事	監事
1	23	4(顧問)					
2	24			2			
3	25	9					
4	26	10		26	63		
5	27	11		19	84		
6	28	5		7	56		
7	29	6	4	5	46		
8	30	5	5	9	63		
9	31	4		8	68		
10	32	3	7	11	70		
11	33	4	9	8	46		
12	34	5	10	6	88		
13	35	2		7	83		
14	36	6		6	90		
15	37	4		6	84		
16	38	7		6	88		
17	39	9		10	94		
18	40	5			91		
19	41	6		5	108		
20	42	6		5	147		
21	43	7		2	141	5	2
22	44	2		2			
23	45	7		2	110	5	2
24	46	9		2	115	5	2
25	47	15		3	158	7	2
26	48	15	24	3	158	7	2
27	49	17	30	4	302	6	2
28	50	4	30	4	359	8	2
29	51	19	31	4	420	8	2
30	52			4		8	2